

日時：令和2年8月26日（水）午後6時30分～7時30分

会場：高浜市役所 会議棟3・4

出席者：大人チームメンバー 14人（欠席8人）、企画部：深谷部長、田中主査
総合政策G担当 山本副主幹、中村主事、多武

(1) これまでの状況報告

- ONI-House さんが期間限定でオリジナル味の揚げパンを販売中。
→終了後もオリジナル味以外の揚げパンを引き続き販売。
- 図書館でオリジナル食べ物特集の展示が始まる。
- 現在協力店舗は11件。キャンペーンを実施するのであれば、さらに多くの店舗に協力していただきたい。

(2) プレゼント企画のキャンペーンについて

■事務局より、資料を基に説明。

- 今年度の予算を組む段階でキャンペーンを実施することは決まっていなかったため、現時点でこのキャンペーンのための予算は0円。
- 豪華景品、応募者全員にお買い物券…というのは金額、事務量、法律という面からもなかなか難しい。
- 応募対象商品については、不公平感がないようにお店側で決めてもらう。

ご意見など

★一般懸賞だと景品の最高額が取引価格の20倍までになるが、何件かの店舗で合同で行う企画なら、共同懸賞（最高額30万円）になるのでは。

→【会議後に事務局で再度確認】

共同懸賞は原則として「市区町村の区域に所在する過半数の事業者」が参加する必要があるようなので、「一般懸賞」で考えていくことになるでしょう。

★広報車や青パトに50周年のシールを貼ったり、広報車で市内をまわればキャンペーンをより多くの人に広めることができるのでは。

★応募ハガキは市や店舗に置くだけではなく、たとえば小中学校で子どもに配ることで、より多くの人に知れわたると思う。

★商品を買った人に、直接SNSで口コミしてもらう。

★別の企画を考えるのもありなのでは。たとえばパピヨンさんの商品を使ったアレンジレシピを作成してもらい、お店でコンクールを開催する。さらにそれを紹介することにより、見る側にも参加側にも楽しみができ、お店にも喜んでもらえる。つながりの場をつくってあげるのはどうか。

◆企画部長より

- 本来今年度行うはずだったが、来年度に延期となった事業の予算については削っている。
- しかし、補正予算を組むにあたって「市内の消費喚起を高める」というアイデアであれば、このキャンペーンのための予算を確保することもできると思う。
- 12月議会で補正予算が承認されれば、1月よりキャンペーンのための予算が使えるようになる。
- キャンペーンを行うのであれば、たとえばそれにむけて10月中に協力店舗を30～50件増やしていくのはどうか。やはり協力店舗が多いほどキャンペーンは盛り上がるし、消費喚起にもつながる。



- 仕組みをしっかりさせて、企画を練り直す。
- 協力店舗の勧誘方法についてメンバーそれぞれ案を出し合っ、どのように動いていくのかを考える。

～ここからは会議後に事務局で話し合ったことをお伝えします～

①企画をもう一度構築しよう

- 大人チームの当初の企画であるオリジナル食べ物はいくつか誕生しました。
- 今、案として出ているこのキャンペーンは、当初想定していなかった新型コロナウイルスの影響により、元気をなくした市内の食べ物関連店をもう一押しする仕掛けということ、メンバー全員共通の認識として再度もつことにしましょう。

②時期は秋ではなく年明けにしましょう

- この秋には別の50周年事業イベントが予定されているので、それらのイベントが一段落した年明けにキャンペーンを開催するのが効果的だと思います。
- さらに、4月になってから商品をお渡しするというスケジュールであれば、予算も組みやすいと思います。

③皆さんと一緒に協力店舗をもっと増やそう

- 市内の食べ物関連店を応援するのならば、やはり協力（参加）店舗を増やしていくのが必要でしょう。

改めてお願いをさせていただきます。

◎次回会議開催予定日時：9月30日（水）18：30～ 会議棟3・4



高浜市市制50周年キャッチフレーズ

ちよっどいいまち
ちよっどいいまち
これまでもこれからも